



JACET通信

社団法人 大学英語教育学会

July 2009

The Japan Association of College English Teachers

No.169

目次

巻頭言（森住衛）	1頁	本部便り	9頁
海外提携学会から～（ETA-ROC）	3頁	支部便り	10頁
特色ある大学英語教育プログラム（九州産業大学）	4頁	社員総会報告	16頁
私の授業（中村朋子）	6頁	各委員会からのお知らせ	24頁
研究会紹介（Critical Thinking研究会）	7頁	事務局からのお知らせ	27頁

[巻頭言]

法人化その後と中長期的な課題

JACET 会長 森 住 衛
桜美林大学

法人化その後

JACETが法人化したのは、昨年（2008年）の8月15日です。もうすぐ1年になろうとしています。8月15日は、先の大戦の終結という点で日本国民が記憶しておかなければいけない日ですが、2008年8月15日は、JACETにとっては、任意団体から社団法人に変わったという点で記憶される日になるでしょう。

記憶されるという点では、先般の3月22日の定例理事会と社員総会は、役員（森住衛）の一人として、感慨もひとしおでした。前年度中に新年度の活動計画・人事・予算を承認できたからです。これは

JACETの47年の歴史で初めての事です。そして、来る6月21日の定例理事会と社員総会では、昨年度の活動と決算・監査報告の承認を得ます。これまでのJACETでは、これらすべてを9月の大会の時におこなっていました。つまり、前年度の総括と新年度の活動や予算を、新年度に入って5ヶ月も過ぎてから承認・決定していたのです。法人化によって本年度からはこれが是正されています。組織体として本来の姿になったわけです。このために、本部も支部も一昨年（2006年）から準備が大変でした。この2年半の変革を要約しますと、「手間と費用がかかったが、体制を整備できた」となります。その結果、面倒なことも出てきました。たとえば、活動の変更が簡単にはできなくなった、

財務などが複雑になった、会員総会に加えて社員総会も開くようになったなどです。しかし、このために、役員や社員の人事や配分が整備された、会計などの透明性が増した、事業や活動の計画が見通せるようになったなど、組織としての長所も大きくなりました。今後は、この長所をますます伸ばしていければと願っています。

なお、昨年12月の法人に関する新しい法制の施行により、すべての法人は今後5年以内に、より公益性の高い法人と一般の法人とに分かれます。JACETがどちらを選ぶかは、しばらく様子を見てから判断をすることになっています。

中長期的な課題

この2年半は法人化に忙殺された感があり、JACETが抱えている以下のような中長期的な問題については全力では取り組めませんでした。すでに以下の案件を3月の定例理事会や社員総会でも審議事項として取り上げて議論を始めていますが、今後はより精力的に対応していきたいと思っています。

関係諸分野・機関との連携の強化

大学英語教育は、幼・小・中・高の英語教育の上に成り立っています。大学院・社会(企業)というように、後半にも連携する領域があります。また、国語・日本語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国朝鮮語・エスペラントなどの言語教育や、言語学・文学・教育学・社会学・心理学などの研究分野、関係諸機関・団体とも関連があります。この「縦」と「横」の連携を強化していきたいと思っています。当然ながら、国内だけではないので、国際化や内外をつなぐ情報化を推進することにもなります。

会員の増強

JACETの会員数は、この3～4年は2600台の横ばい状態です。毎年、200名ほどの新入会員があるのですが、その分だけ退会者が出ています。減ってはいないのが救いですが、法人化後は毎年50名増の見込みを立てていますので、なんとか会員数をプラスにしていかなければなりません。特に、英語母語話者など日本語以外の言語を母語とする会員を大幅に増やす必要があります。また、

大学院生など若い仲間も必要です。20～30代の会員が多ければ、組織として中長期的な将来への希望も大きくなります。

英語能力試験の開発

英語能力試験の開発も着手できたらと願っています。国際的な資格試験としてはTOEICやTOEFLなどが普及していますが、日本独自のものが必要です。その点では、STEPの英語検定試験が参考になります。また、英語能力判定の考え方としてCEFRなどがありますが、これら「外来方式」も参考にした日本独自の基準の作成が必要です。これもJACETが本格的に関与したい分野です。

大学英語教員の養成と身分保障

英語教育に限りませんが、高学歴化と少子化によって、大学教育全体が「大衆化」してきています。このために基礎能力の補充や学生の支援がますます重要になってきています。何よりも普通の授業が大切になっています。このために、各大学はFDなどで対応していますが、大学英語教員の本格的な養成・研修はほとんど手つかずの状態です。また、大学教員の採用の際の終身雇用が激減しています。特に、英語など語学教員に多いのではないのでしょうか。JACETはこの問題にも無関心ではられません。

事業・活動のさらなる見直し

大会・紀要・セミナー・研究会、あるいは、通信・ネットワークの通常の事業や活動なども、これまで必要に応じて改善・改革をおこなってきました。この結果、概ね整備されてきましたが、数年後に50周年記念という大きな節目を迎えますので、抜本的に見直して、向後10年、20年の中長期的にも耐えうるようにしたいと思います。たとえば、大会発表の英語使用の原則化、各紀要の発展的統一、研究会の再編などの検討です。

これらの課題は、6月の定例理事会・社員総会、9月の臨時理事会・会員総会でも取り上げて詰めていく所存です。会員のみなさまのご意見・ご要望などを、各支部を通じて、あるいは、本部に直接に、お寄せいただければと願っています。

海外提携学会から～

Interview with
**Dr. Yiu-nam Leung &
Dr. Kai-Chong Cheung**
of ETA-ROC, Taiwan

Dr. Yiu-nam Leung, associate professor and chair of the Department of Foreign Languages and Literature, National Ilan University and past president of ETA-ROC together with Dr. Kai-Chong Cheung, associate professor, chair of the Department of English, and director of the Language Center, Shih Hsin University, spoke at the 47th JACET national conference last summer. They later introduced ETA-ROC in an interview and discussed early English education in Taiwan. Below is a summary of the interview:

The English Teachers' Association of the Republic of China (ETA-ROC) was founded by Professor David Dai Wei-yang and other teaching professionals in 1991. Its chief mission is to promote English teaching and learning at different levels of education in Taiwan and other parts of the world. Its members range from teachers of pre-schools and cram schools to teachers at the primary, secondary, and tertiary levels. They have held an international symposium and book fair in the second week of November every year since 1991. Several international speakers, 200 local presenters, and 100 publishers have participated in this annual event. In this symposium, presenters share their findings with peers. Most of the presentations concentrate on action research based on classroom teaching and learning at the elementary, secondary, and college level. Recent research has shown special interest in CALL, and in the integration of language teaching with

other fields such as linguistics, psychology, testing and assessment, as well as holistic approaches to language teaching and learning.

English education in Taiwanese primary schools started with fifth graders in 2001 and was extended to the third grade in 2005. At the same time, however, some cities and counties with larger budgets began English education for first graders due to increasing demand for English classes at an early age. Like many other countries in Asia, workers in Taiwan with a high proficiency in English have a better chance of getting good jobs and earning promotions.

English classes in primary school meet one or twice a week and most emphasis is on developing listening and speaking skills, rather than grammar and writing skills. Songs and games are utilized in such classes. Expectations for early English education among parents of primary school students are very high, and they often send their children to cram schools or English-language schools for extra lessons. However, the education ministry has banned students who are in junior high or higher from going to English immersion schools. This is due to a governmental policy which states that students should have a well-balanced curriculum so that they have equal exposure to Chinese, English, and Taiwanese, their mother tongue.

Some problems that Taiwan is now facing are a shortage of qualified English teachers and a widening gap among students in terms of English proficiency. To become an English teacher is highly competitive, especially in cities, because



Dr. Yiu-nam Leung (右) と Dr. Kai-Chong Cheung

young teachers want to stay close to their families and prefer an urban lifestyle. They do not want to work in schools in remote areas.

The disparate levels of English proficiency seen at many schools add to the problem. Some students started studying English in kindergarten or the first grade and already have a good command of English before starting regular English classes at school. On the other hand, some students lag behind because their pace of learning is slower or they started learning English at a later age. To compound the problem, the more proficient students often think they are superior, while the less proficient learners are likely to lose confidence and so become less motivated to learn English. Solutions such as ability grouping and remedial teaching have been introduced to cope with this disparity in English proficiency.

In a sense, Taiwan is five years ahead of Japan, as we are just now implementing English education at the elementary school level. The

lessons learned in Taiwan could provide us with useful information about how to best implement early English education. Both countries want their citizens to be competitive in the global arena, and recognize the importance of English-language proficiency in making that happen.

(Reported by Etsuo Taguchi, editor)

特色ある 大学英語教育プログラム

九州産業大学
柿元悦子

全学共通英語教育による4年一貫した取組
－実践的英語コミュニケーション能力の
育成を目指して－

本学では“産学一如”の建学理念を基に国際社

広 告

会で活躍できる人材をいかに育成できるか、という課題に対し、平成10年の英語教育検討委員会設立以来英語教育の実質的改善に取り組んできました。その中で平成19年度に特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に「全学共通英語教育による4年一貫した取組—実践的英語コミュニケーション能力の育成を目指して—」という題目で選定されました。新入生の多数は英語を苦手とする一方で、TOEIC 高得点者も少なからず居る、というのが本学学生の英語力分布です。そこで、どちらのタイプの学生も自分の現レベルから確実に実力を向上させることのできる魅力ある4年一貫したプログラムを展開することを目標として開発したプログラムで、学部を問わず初級者から上級者まで非常にきめ細かく学生を指導し、「幅広い底上げ」を目指すプログラムである点が評価されました。

この九産大の英語教育プログラムの特徴は次の4点に集約されるでしょう。Ⅰ. 学部の枠を超え横断的に編成した徹底した能力別クラス、Ⅱ. 定期的なアチーブメントテストの結果に基づき、4年一貫したカリキュラムを学生の能力・希望に応じて進められる点、Ⅲ. e-learning 課題学習を徹底させる工夫、Ⅳ. 教員が学生の英語レベルをより正確に把握できるようTOEIC Bridgeスコアと学生の英語コミュニケーション能力の関係について調査した「Can-Do」リサーチの結果を利用している点。

まずⅠについては、プレイスメント・アチーブメントテスト（TOEIC Bridge, TOEIC）により、大きく4つの能力クラス（最上・上・中・初級）に分け、これをさらに60段階以上のきめ細かなクラスに分割しています。他学部学生と、30名以下の少人数で、かつプレイスメントテストで同得点の者ばかり、という要素は、学生に適度な緊張感とリラックス感を与えているようです。また、この全学共通カリキュラムでは、日本人、ネイティブの両講師による週2回の授業が必修となっており、学生はリーディング、文法事項の確認は主に日本人、リスニングや実践的コミュニケーション面はネイティブ講師、と2人の担任から1年間通して授業を受けることになります。

Ⅱでは、1、2年次学年末に行われるアチーブメントテストでクラス分けが行われ、成績上位者のクラスでは3、4年次になるとネイティブ講師

が中心となり専門分野ごとにゼミ規模（5-15人）のクラスが構成されます。また、「KSU海外ジョブトレーニング」というプログラムを設け成績上位者の中から15人を選考し、夏季6週間（語学研修4週間+企業インターンシップ2週間）奨学金給付つきで学生をオーストラリアに送り出しています。このプログラムの効果は絶大で、2年後期ともなると意欲の高い者を中心に、英語力向上に必死になる学生たちの目の色が本当に変わってくるのが分かります。



ジェットロ・シドニー支部を訪れ
オーストラリアの事情を勉強した



シドニーで記念写真。後方の建物は
有名なシドニー・オペラハウス

Ⅲについては、学生に授業以外での学習を奨励するためにe-learning 課題を毎週課し授業時間中に前週課題のチェックテストを実施、その結果を授業成績に加味するシステムを採っています。そこで、よい意味での「e-learning ショック」が発生しました。語学自習室の年間利用者延べ数が、平成14年度5,332人だったものが平成18年度には64,321人と4年で約12倍超となり、学生たちが積極的に取り組んでいることが証明されたのです。



Ⅳについては、TOEICを主催する国際ビジネスコミュニケーション協会とTOEIC Bridgeに関する共同研究として、TOEIC Bridgeスコアと学生の英語コミュニケーション能力の関係について「Can-Do」リサーチを行いました。九産大独自の

「学生が英語でできること」の一覧表作成、各教員による担当学生に関する「Can-Do」リサーチを経て、各教員は担当クラスに関する適切な教育目標、授業内容、方法、教材の決定などが容易になりました。この結果、平成18年度学生による授業評価アンケートで本学の英語教育は専任・非常勤講師合わせて4.0点（5点満点）という極めて高い評価を得ました。本学の共通英語教育のシステムが学生からの評価を得て、FDの視点からも有効なものであるということを示すことができましたと考えています。

これまでの実践で更なる改善が可能な部分も多々上がってきています。これからさらに実態に合ったよりよいシステムを構築していきたいという思いを担当者たちは共有しています。



私の授業紹介

中村朋子・広島国際大学

大学入学を機に「英語を基礎からやり直したい」という学生たちは少なくない。彼らの要望を受けて、教師は単語の小テストを繰り返し、文法を一から説明し、演習問題に取り組みせるとい、いわゆる Drill & (S)kill 方式で復習させてはいるだろうか。英語の苦手な学習者のつまずきは、語彙や文法以前の単語認知の段階にあることを筆者は主張してきた。PCLL教室で、学生たちの英語音読を一人ずつモニターしていると、特に大学入学直後の1年生の中に、発音をしているらしいかすかな息が聞こえてくる学生はまだ良いとして、

まったく英語の音を出すことのできない学生たちがいる。文字を見て発音をする、発音を聞いて文字を想起するという言葉の学びの第一歩からつまずいている。

こうした英語擬似初心者（false beginnersの中村による訳語）を対象にした学習支援ソフトウェア「ハイ！かんづめ君」を本学の石原恵子（教育工学）研究室と共同開発し、2006年以来その効果をみる実験授業をしてきた。2007年には、1年生のオーラル・イングリッシュの授業で終わりの15分間を使い共同授業をした。通年で30週間の授業のうち、18週間を使った。



このプログラムは、カードゲームの「神経衰弱」のように、同一カードを探し当てるといものである。3つのバージョンがあり、ブロンズバージョンは音声と文字と意味（絵）を提示する。シルバーバージョンは音声と文字、ゴールドバージョンは音声のみである。1つのバージョンは11ステージあり、1音節の基本英単語75語をパイロット版ソフトに使用した。1ステージ終了ごとに何枚カードをめくったか、枚数の表示とともに、フクロウなどステージごとのキャラクターが動いて Excellent, Goodなどのメッセージで学習状況を知らせる。また、学習履歴はエクセルファイルに記録される。

18週間の実験授業で7回単語の書き取りテストを実施した。結果の分析から、次の3点がわかった。(1) 単語に関する情報について、モダリティーの異なる3つの表象、すなわち視覚・聴覚・意味（絵で提示）を同時に提示すれば、学習者は単語の認知をしやすい。(2) 擬似初心者は、英単語の音声の手がかりしかないゴールドバージョンの課題も、学習頻度を増やすと3つの表象が同時に提示

されるブロンズバージョンと同程度まで習熟することができる。(3)擬似初心者を対象にした本実験で、夏休みなど一定期間のブランクがあっても、再学習の効果は低下しない。

この実験授業で得た知見を、テキスト理解に応用する授業を試みた。学習者の多感覚機能を活性化して、英文の意味内容の理解を助けるという授業である。テキストの音読、テキストの文字、ストーリーの内容を描いた画像の3つの情報を同期させて提示するために、PCLL教室を使用した。ひととおりテキストの読解を終了するには、いくつかのステップがある。まず挿絵をOHCで見せ、4人ずつのグループでテキスト内容の予測をさせる。自分たちが予測した内容をグループごとに発表後、参加者はモニター画面でイラストを見ながら、教師によるテキストの読み聞かせを聞く。その後で参加者はタイムを測って、本文を黙読し、裏のページの設問に答える。解答の時には、本文を見ないよう指導をする。ストーリーの記憶度を高めるためである。終了後、グラフに内容理解の正答数と1分間に読めた語数を記録する。仕上げとして、参加者は本文の音読をMP3で録音し、ファイルに保存する。次週、前回のイラストを見ながら、ストーリーの内容を思い出して「What I remember about the story」としたシートに覚えていることを記入する。参加者からのフィードバックによれば、挿絵で内容を予測、挿絵を見ながらの教師によるストーリーの読み聞かせ、次週に挿絵を見ながらストーリーの内容を思い出すことがテキストの内容理解に役立ったとある。英語科教授法の領域で言えば、文法訳読方式による英文読解の代替指導法として活用できないかとも考えている。

しかし、この方法は、教師が機械を操作し、いくつかの手順を踏んで、号令を掛けながら取り組ませるものである。教師主導によらず、学習者が自分のペースで自律的に学習できるソフトの開発を計画している。マルチメディアDAISY(Digital Accessible Information System)の利用による英文読解用電子図書である。DAISYは「アクセシブルな情報システム」と訳されている。このシステムの特徴は、音声・文字・画像をシンクロさせることができる点にある。しかも音読している文やフレーズを黄色のハイライトで示すことができる。視覚障害、学習障害、知的障害、精神障害の方に

有効であることが国際的に認められている。私たちはこのシステムを第二言語習得に応用し、英語学習のユニバーサルデザイン化を目指している。単語認知トレーニングでわかった「提示する手がかりが多いほど、学習者は学びやすい」ことを基本理念として読解ソフトの作成に取り掛かる予定である。



研究会紹介

Critical Thinking 研究会

代表・大野秀樹 (大東文化大学)

Critical Thinking (CT) 研究会は、1998年に発足して以来、大学英語教育における思考力育成の重要性を認識し、活動してきました。関東を中心に、九州から北海道まで33名の会員がおります。会員が興味を持っている分野は、ライティング、ディベート、メディア・リテラシー、異文化教育、評価方法と多岐にわたっています。

まず、ここ数年の活動を、(1)研究会主催の講演会・読書会、(2) JACET関連の研究発表、(3)出版関係の点からお知らせし、(4)現在の活動状況とこれからの展望についてご紹介いたします。

(1) 研究会主催の講演会・読書会

2005年の2月には、Dr. Michael Byram (現 Emeritus Professor in the School of Education, Durham University) をお招きし、“Being critical—Some reflections on definitions and educational objectives” という演題で、お話を伺

いました。多様な文化的背景が混在するヨーロッパで、効果的な異文化コミュニケーションをおこなうのに必要なものは何かについて説明をされました。同2005年の9月には、CALLやインターフェースがご専門であるDr. George Weir (当時 University of Strathclyde, Glasgow)をお招きし、“A system for assisting with evaluation of ESL competence tests” という演題で、開発中の評価システムについてお話を伺いました。CTに関するテスト開発の可能性も示唆されました。

2006年度より、一年に数回有志が集まり、読書会兼ミニ発表会を開催しています。2006年度は3回おこなわれ、会員がCTと関連すると考える書籍を持ち寄り、それらがどのようにCTと関連するかについて、その会員のCT観とともに発表がおこなわれました。また、CT関連の論文を読む機会も持ちました。

2008年度は読書会用に何冊かの本を選び、同6月には、J. P. Leighton & R. J. Sternberg (Eds.), *The nature of reasoning* (Cambridge University Press) から参加者がいくつかの論文を選び、議論しました。

読書会を中心とした研究会は年に数回、東京で開催しています。

(2) JACET 関連の研究発表

2005年9月のJACET全国大会（於玉川大学）においてはシンポジウムをおこないました。4人の会員により、ライティング教育、「レメディアル」授業におけるCT、日本語小論文を活用した英語リーディング授業、ディベート授業におけるCTの育成および評価研究の発表がなされました。

2006年4月のJACET関東支部研究会（於JACET事務所）においては、研究会代表の大野がCTのとらえ方、測定の仕方について発表し、それらの観点を応用した英語によるディベート授業の例を紹介しました。

2007年6月には、立教大学において「現代英語教育学の諸相：Present Frontiers」というテーマのもと、JACET関東支部大会のプレリミナリー・セッションが開催されました。CT研究会からは代表3名が参加し、「クリティカル・シンキングと大学英語教育」というテーマで発表しました。

(3) 出版関係

2007年度には2004年度から2007年度までの

広 告

活動を『クリティカル・シンキングと大学英語教育I』(ISSN:1882-255X)」というCD-ROM出版物にまとめました。その中にはEnnis-Weir *Critical Thinking Essay Test* の採点基準に関する考察や、ESP教育によるCT養成の試みなど、会員による研究や教育実践例も報告されています。

また、会員による書籍も出版されています(鈴木健 大井恭子 竹前文夫(編) 2006『クリティカル・シンキングと教育 日本の教育を再構築する』世界思想社)。

(4) 現在の活動状況とこれからの展望

現在の会員は、それぞれの専門分野からCTに関する研究をおこなっています。今後の研究課題も含めると、CT研究会の研究トピックとしては、CTテストの測定・開発(日本語、英語)、世界におけるCT研究の歴史・現状について、他分野(他言語、他学問分野)との連携、メディア・リタラシーや異文化教育におけるCTの位置づけに関して、英語ライティング教育におけるCTスキルの育成について、日本の言語政策や教育に見られるCT観について、CTのCan-Doリスト化、歴史上のCT関連書の分析などをあげることができます。今年度は、会員の興味に応じた外部助成金の申請に関して会を開く予定です。秋には本研究会以外からも発表を募集して研究発表会を開催する予定です。

今後の大学教育においては、CTを中心とした思考力が、「学士力」の一部として、重要な育成課題となっております。CTをJACETにおいて考えてみたいという方、学習科学や科学哲学の観点からCTに取り組んでみたい方、またはCTの歴史や、国際的な教育の観点からCTを研究してみたいという方もおられるかと思えます。もし本研究会にご興味を持たれましたら、jacetc@yahoo.co.jp までご連絡を頂ければ幸いです。

(JACET Critical Thinking 大野秀樹・熊本たま・松本佳穂子)

本部便り

代表幹事 笹島 茂・埼玉医科大学

2009年度から新しく代表幹事を引き受けることになりました。よろしくお願いたします。社団法人としての1年目が終わりましたが、今年度

は会長選挙、支部長選挙などと併せて、各行事が例年通り予定されています。JACETにとって充実した1年となりますよう最善を尽くしたいと思います。また、JACET創立50周年関連のいくつかの企画も具体化してきました。ICT調査研究特別委員会に続き、第3次実態調査委員会も始動しました。今年度は社団法人としてのJACETにとって飛躍の時期となればよいと考えます。下記に主な役員と行事日程を掲げます。微力ながら、本部と支部、支部と支部の橋渡しをします。忌憚のないご意見ご指導ご協力どうぞよろしくお願いたします。

●2009年度役員

【理事】 森住衛(会長)、神保尚武、岡田伸夫(副会長)、田中慎也(専務理事)、寺内一(常務理事・総務・広報通信)、赤尾文夫、光田明正(外部理事)、西堀ゆり(北海道支部長)、小嶋英夫(東北支部長)、中野美知子(関東支部長)、木村友保(中部支部長)、木村博是(関西支部長)、西田正(中国・四国支部長・JACET賞選考(9月まで))、山内ひさ子(九州・沖縄支部長・国際交流)、石田雅近(セミナー事業)、木村松雄(紀要)、芝垣茂(研究会担当・関東支部副支部長)、見上晃(財務・ネットワーク管理)、山岸信義(全国大会運営)、塩澤正(中部)、原田園子、南出康世(関西)

【監事】 椿忠男、矢田裕士

【副支部長】 高井收(北海道)、弓谷行宏(東北)、(芝垣茂(関東))、清水克正(中部)、野口ジュディー津多江(関西)、松岡博信(中国・四国)、樋口晶彦(九州・沖縄)

【本部幹事】 笹島茂(代表幹事、総務委員長)、尾関直子、渡辺敦子(副代表幹事) 浅川和也(財務委員長)、浅岡千利世(全国大会運営委員長)、大須賀直子(広報通信委員長)、下山幸成(ネットワーク管理委員長)、河野円(紀要委員長)、河内山晶子(セミナー事業委員長)、相川真佐夫(国際交流委員長)、山崎敦子(研究会担当委員長)、岩井千秋(JACET賞選考委員長(9月まで))

【支部幹事】 [北海道支部] 河合靖(事務局幹事)、横山吉樹(幹事) [東北支部] 富田かおる(事務局幹事) [関東支部] 上田倫史(事務局幹事)、中里喜彦、塩沢泰子、白井芳子(幹事) [中部支部] 石川有香(事務局幹事)、伊藤光彦、大石晴美、大森裕實(幹事) [関西支部] 長谷尚弥(事務局

幹事)、窪田光男、水本篤、竹蓋順子、山西博之、氏木道人、幸重美津子(幹事)[中国・四国支部]三宅美鈴(事務局幹事)、高橋俊章(幹事)[九州・沖縄支部]荒木瑞夫(事務局幹事)、縄田義直(幹事)

【社員】[北海道支部] 8名、[東北支部] 7名、[関東支部] 45名、[中部支部] 15名、[関西支部] 26名、[中国・四国支部] 10名、[九州・沖縄支部] 11名、[本部] 15名 計 137名
(役員などの詳細はJACETウェブサイトをご覧ください。)

●2009年度主な行事日程(7月以降)

- 7月3日(金)～4日(土) KATE 2009(韓国・ソウル)
- 7月4日(土) 東北支部大会(支部総会)(エル・ソーラ仙台)
- 7月18日(土) 本部運営会議、関東支部月例研究会
- 7月25日(土) 関西支部第1回講演会(京都キャンパスプラザ(予定))
- 8月15日(土) 本部運営会議
- 8月18日(火)～21日(金) 第36回サマーセミナー(草津セミナーハウス)
- 8月29日(土) 中国・四国支部大学間連携イベント:大学生オーラルコミュニケーション活動(予定)
- 9月3日(木) 支部長会議、臨時理事会(北海学園大学)、顧問会議など
- 9月4日(金) 2009年度会員総会
- 9月4日(金)～6日(日) 第48回JACET全国大会(北海学園大学)
- 9月19日(土) 本部運営会議
- 10月3日(木) 関西支部第2回講演会(神戸市三宮研修センター(予定))
- 10月17日(土) 本部運営会議、関東支部月例研究会
中部支部講演会(南山短期大学)
- 10月31日(土) 北海道支部研究会(藤女子大学)
- 11月7日(土) 中国・四国支部第1ブロック研究会(広島国際学院大学)
- 11月13日(金)～15日(日) ETA-ROC大会(台湾、台北)
- 11月14日(土) 九州・沖縄支部秋季講演会
- 11月21日(土) 本部運営会議

- 中国・四国支部第2ブロック研究会(岡山大学)
- 11月28日(土) 関西秋季支部大会(支部総会)(近畿大学)
- 11月 ALAK 2009(韓国)
- 12月 会長選挙・支部長選挙
- 12月5日(土) 東北支部講演会(エル・ソーラ仙台)
中国・四国支部第3ブロック研究会(松山大学)
- 12月12日(土) 中部支部研究会(名古屋工業大学(予定))
- 12月19日(土) 本部運営会議、関東支部月例研究会
北海道支部研究会(北海道大学)
- 12月20日(日) 支部長会議
- 1月16日(土) 本部運営会議
- 1月30日(土) 北海道支部研究会(予定)
- 2月13日(土) 中部支部研究会(名古屋工業大学(予定))
- 2月20日(土) 本部運営会議
- 3月6日(土) 関西支部第3回講演会(関西学院大学大阪梅田キャンパス(予定))
- 3月13日(土) 本部運営会議
- 3月20日(土) 拡大運営会議(予定)、関東支部月例研究会
- 3月21日(日) 第2回定例理事会、第2回定例社員総会(早稲田大学)
- 3月22日(月) 第18回春季英語教育セミナー(早稲田大学)

支部便り

〈九州沖縄支部〉

支部ニューズレター No.25発行

4月15日(水)

第3回支部大会実行委員会

日時:4月17日(金) 13:00～15:00

場所:琉球大学法文学部

2009年度第1回支部役員会

日時:4月18日(土) 13:05～15:35

場所:西南学院大学学術研究所第1会議室

議題:

- (1) 新任委員紹介
- (2) 支部紀要論文の提供について

(3) 支部運営要領および支部内規の検討
(4) 支部大会プログラムの決定
第87回東アジア英語教育研究会
日時：4月18日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
“RELC Specialist Course: Specialist Certificate in Language Curriculum and Materials Development” 津田晶子（中村学園大短大）
“English craze in China: A perspective of Textbooks” Xiong Tao（九州大院生）
第88回東アジア英語教育研究会
日時：5月16日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
発表者：米田みたか（お茶の水女子大）
発表題目：海外子女の英語教育：シンガポールでの取り組み（English language education for Japanese pupils in Singapore）
第4回支部大会実行委員会
日時：5月22日（金）13:00～15:00
場所：琉球大学法文学部
第2回支部役員会
日時：5月23日（土）13:05～16:45
場所：西南学院大学学術研究所大会議室
議題：
(1) 2009年度支部紀要編集スケジュールの検討
(2) 支部大会について
(3) 次期支部長選挙：投票の結果、山内ひさ子先生（長崎県立大シーボルト校）が次期支部長（2010年度～2011年度）に選出された
(4) 社員および研究企画委員推薦者リスト作成
(5) PKETAとの交流について
(6) 支部大会における新インフルエンザへの対応について
九州・沖縄支部紀要 *Annual Review of English Learning and Teaching* No.14 投稿締切り
5月31日（日）
第5回支部大会実行委員会
日時：6月5日（金）13:00～15:00
場所：琉球大学法文学部
2009年度第1回支部紀要編集委員会
日時：6月13日（土）
第3回支部役員会
日時：6月19日（金）17:00～18:00
場所：ステーションホテル牧志（沖縄県那覇市）
議題：

(1) 総会資料の検討
(2) 支部大会について
第23回支部研究大会および支部総会
日時：6月20日（土）9:30～18:25
場所：琉球大学法文学部
テーマ：World Englishesと大学英語教育—発信型コミュニケーション能力の育成—
1) 基調講演
吉川 寛（中京大）『『国際英語』論は日本の英語教育に有効か？』
2) 特別講演
Brian Spitzberg (San Diego State Univ.) “Modeling Intercultural Communication Competence”
3) シンポジウム（大会テーマと同タイトル）
コーディネーター・司会：東矢光代（琉球大）
パネリスト：米岡ジュリ（熊本学園大）・志水俊広（九州大）・柴田美紀（琉球大）
4) 支部総会
5) 研究発表 26件
第89回東アジア英語教育研究会
日時：6月27日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
発表者：徳永美紀（九州産業大）
発表題目：未定
第4回支部役員会
日時：7月4日（土）14:00～
場所：西南学院大学学術研究所第1会議室
第2回支部紀要編集委員会
日時：7月18日（土）
第90回東アジア英語教育研究会
日時：7月18日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
発表者：木下正義（西南学院大非常勤）
発表題目：未定
第5回支部役員会
日時：8月29日（土）14:00～
場所：西南学院大学学術研究所第1会議室
第3回支部紀要編集委員会
日時：9月1日（土）
第91回東アジア英語教育研究会
日時：9月26日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
発表者：伊藤彰浩（西南学院大）・島谷浩（熊本大）
発表題目：未定
(志水俊広・九州大学)

〈中国・四国支部〉

1. JACET 中国四国支部役員会

日時：2009年4月25日（土）15:30～17:30

場所：広島国際大学国際教育センター

報告事項

- 1) 平成20年度第二回定例理事会および社員総会
- 2) その他

審議事項

- 1) 平成20年度支部活動報告
- 2) 平成20年度支部決算報告
- 3) 平成21年度支部人事
- 4) 平成21年度支部活動
- 5) 平成21年度支部予算
- 6) 平成22年度支部予算
- 7) 平成22年度支部活動
- 8) 平成22年度支部人事
- 9) その他

2. 2009年度 JACET 中国・四国支部大会

日時：2009年6月6日（土）

場所：愛媛大学 教育学部

(A) 研究発表（午前）

- 1) “Pilot Study: Text Difficulty and Reading Strategies by Japanese EFL College Students”, 瀧由紀子（松山大）
- 2) 「英語学習の促進に係るメタ認知能力の学習意識への優位性」宮本智明（香川県立香川中央高校）
- 3) “An Interactive English Writing Classroom: An Action Research”, 尊田望（山口大）
- 4) 「ロアルド・ダールの短編 ‘The Hitchhiker’ におけるメッセージについて」田淵博文（就実大・就実短大）

(B) 支部総会

(C) 研究発表（午後）

- 1) 「日加の行動計画に関する比較と考察」高垣俊之（尾道大）
- 2) “Making It Work! A Meaningful Language Learning Center in the Making.” Steve T. Fukuda (Tokushima Univ.)

(D) シンポジウム

「特色のある大学英語授業実践」

司会：池野修（愛媛大）

パネリスト（順不同）：岩井千秋（広島市立大）、
榎田一路（広島大）、江口真理子（島根県立大）
（鳥越秀知・詫間電波高専）

〈関西支部〉

1. 大会、セミナー等の開催

関西支部春季支部大会

日時：2009年6月27日（土）

場所：京都外国語短期大学

テーマ：大学生の英語力の現状にどう対応するか（Ⅱ）

- (1) コロキアム 1: 大学生の英語力の現状にどう対応するか —理工系大学における取り組み—
井村誠（大阪工業大） 柏原郁子（大阪電通大） 服部圭子（近畿大）
- (2) 研究発表 1: 不安の対処と学習ストラテジーの向上：英国における日本人英語学習者の場合
吉田佳代（甲南大）
- (3) 実践報告 1: 短期英語留学：一事例研究（事前指導とその効果）
田浦秀幸（大阪府立大） 田浦アマンダ（摂南大）
- (4) ポスター 1: 学習者に支持された読解と文法の質問形式
高橋昌由（大阪府立山田高）
- (5) コロキアム 2: 大学生の英語力の現状にどう対応するか —外国語系大学の現状と課題—
石川保茂（京都外国語大） 智原哲郎（大阪女学院大） 窪田光男（関西外国語大）
- (6) 研究発表 2: “current relevance” の拡大解釈
傅建良（関西学院大・大学院生）
- (7) 実践報告 2: ラボヴの話術構成の実践の仕方
カニンハム・スチュアート（姫路独協大・非）
- (8) 実践報告 3: 大学生の会話指導におけるゲームの活用とその効果
成田修司（大阪経済大・非）
- (9) 実践報告 4: グレイディッド・リーディングに対する学生の所感 — 大学における英語総合コース
ルーオー・グレッグ（関西学院大）
- (10) 研究発表 3: 情動とコミュニケーション力の関係について
荒木史子（広島女学院大・大学院生）
- (11) 実践報告 5: コミュニケーションクラスでの生徒の自律性
カンベルラーセン・ジョン（姫路独協大・非）
- (12) 実践報告 6: トピックへの予測を中心とする多重知能を生かした活動の導入が読解力に与える影響
二五義博（広島国際大・非）

(13) 実践報告 7: 英語の基礎力が弱い大学生のための「弱者の戦略」の検討

増田将伸 (甲子園大)

(14) 講演: 「この国の異言語教育の動向をどうみるか」

大谷泰照 (名古屋外国語大)

第1回支部講演会 (特別シンポジウム)

関西支部文学研究会企画特別シンポジウム

日時: 2009年7月25日 (土) 15:30~17:00

場所: 京都キャンパスプラザ

2. 紀要、支部ニューズレター等の出版物の刊行

(1) 関西支部紀要の刊行

『JACET関西紀要』11号

発行日: 2009年3月31日

内容: 研究論文、実践報告、研究ノートの3つの分野

規模: 650冊

(2) 関西支部ニューズレターの刊行

JACET-Kansai Newsletter No. 46

発行日: 2009年1月30日

規模: 各620部

内容: 支部長巻頭言、支部大会報告、研究会報告、委員会報告、その他英語教育関連事項

(井村誠・大阪工業大学)

〈中部支部〉

1. 役員会

第4回役員会

日時: 2008年11月21日 (金) 17:00~18:30

場所: 名古屋工業大学 2号館 ラウンジ会議室

議題:

- (1) 2月28日の研究例会の詳細
- (2) 支部会計 (現時点の予算執行分、今後の執行予定分)
- (3) 支部大会の日時、テーマ、講演、シンポジウム
- (4) 支部大会実行委員会の立ち上げ
- (5) 研究企画委員の増員

第5回役員会

日時: 2008年12月13日 (土) 10:30~12:30

場所: 中京大学 0号館7階、07D教室

議題:

- (1) 理事会報告
- (2) 支部役員規定報告
- (3) 懇親会についての規定報告
- (4) 支部大会のテーマ、シンポ講師の選出、ワー

クシヨップについて

(5) 2009年度予算・人事・事業計画について
第6回役員会

日時: 2008年1月10日 (土) 2:00~4:00

場所: 名古屋工業大学

議題:

- (1) 12月支部長会議報告
- (2) 会計報告
- (3) セミナー他、今後の予定
- (4) 2月定例会
- (5) 支部大会申込書
- (6) 2009年度人事・事業計画案
- (7) 支部大会準備日程

第7回役員会

日時: 2月28日 (土) 12:30~14:20

場所: 名城大学 名駅サテライト

議題:

- (1) 『紀要』投稿規程変更
- (2) 講演会講師謝礼
- (3) 支部大会発表査読
- (4) 全国大会司会者推薦

第8回役員会

日時: 4月18日 (土) 14:00~16:00

場所: 名古屋工業大学

議題:

- (1) 2008年度支部会計報告
- (2) 2008年度支部活動報告と2009年度活動予定
- (3) 22号ニューズレター
- (4) 支部長候補選出
- (5) 社員候補の検討
- (6) 支部大会
- (7) 50周年記念刊行物

2. 定例研究会

(1)

日時: 12月13日 (土) 13:30~18:10

場所: 中京大学

研究発表: 5件

- ① 早期英語教育に関する一考察 片野田浩子 (名古屋経営短大)
- ② 英語の授業における Group Activity についての一考察 堀内ちとせ (藤田学園)
- ③ Functional load: Transcription and analysis of the 10,000 most frequent words in spoken English Leah Gilner (名古屋外国語大)
- ④ スコットランド初等教育におけるストーリー

テリング活用法—お話の箱 (story box) について
井上裕子 (北陸大)

⑤ Nativelikeness をめぐって CPH と SLA 研究会
鹿野緑 (南山大学)

講演: 「国際英語」教育の原理と実践 日野信行
(大阪大)

(2)

日時: 2月28日 (土) 14:30~17:50

場所: 名城大学 名駅サテライト 多目的ルーム
研究発表: 3件

① 「英文法のテキスト」が持つ可能性について
森明智 (名古屋学芸大)

② 英語教育と言語アセスメント 小宮富子 (岡
崎女子短大)

③ 観光と外国人への言語サービス 河原俊昭
(京都光華女子大)

講演: 脳科学と言語習得: 画像可視化技術を中心
とした可能性と課題 木下徹 (名古屋大)

3. その他

(1) 22号ニューズレター発行 6月20日

(2) 第26回 中部支部大会開催 大会テーマ: 「国
際的視野から見た英語教育の羅針盤」 Insights
into English Teaching from Global Perspectives

日時: 6月6日 (土)

会場: 名古屋外国語大学

特別講演: 混迷を深める異言語教育への提言 大
谷泰照 (名古屋外国語大)

シンポジウム: 「国際的視野から見た英語教育の
羅針盤」 森住衛 (桜美林大)、田中春美 (南山大・
名)、山中秀三 (元名古屋女子大)

(塩澤正・中部大学)

〈関東支部〉

1. 支部総会日程

第一回: 6月21日 (2008年度事業報告および
2009年度事業計画について)

場所: 青山学院大学

第二回: 12月19日 (2010年度事業計画につい
て、支部長選挙)

2. 2009年度支部合同会議日程予定

第一回 4月18日 (土)

第二回 5月16日 (土)

第三回 7月18日 (土)

第四回 9月19日 (土)

第五回 10月17日 (土)

第六回 11月21日 (土)

第七回 2010年1月 (未定)

第八回 2月20日 (土)

第九回 3月20日 (土)

3. 人事

新研究企画委員 (2009年3月支部合同会議によ
り承認)

川口恵子氏

4. 研究会活動

月例研究会 2009年度活動予定

平成21年 4月18日 (土)

タイトル: 「リフレクティブ・プラクティス: 教
師の成長を目指して」

(Reflective practice for professional
development)

発表者: 高木亜希子 (大阪教育大)

平成21年 5月16日 (土)

タイトル: 「立教大学英語副専攻カリキュラム —
北アリゾナ大学で考えたことを含めて」

(Rikkyo University English Minor Program:
Inspired at Northern Arizona University)

発表者 鳥飼慎一郎 (立教大)

平成21年 7月18日 (土)

平成21年 10月17日 (土)

平成21年 12月19日 (土)

平成22年 3月20日 (土)

* 7月以降の月例研究会の詳細は関東支部HP上
に掲載されますので、そちらをご覧ください。

5. 関東支部大会

日時: 6月21日 (日)

場所: 青山学院大学 (青山キャンパス)

* 詳細は関東支部HPをご覧ください。(URL:
<http://www.jacet-kanto.org/>)

(上田倫史・目白大学)

〈東北支部〉

1. 東北支部臨時役員会

4月25日 (土) 13:00~ 東北工業大学一番町ロ
ビー

東北支部4月役員会が東北工業大学一番町ロビー
4階ホールで開催された。以下の点について協議
された。

1 2008年度支部決算・2009年度予算案につい
て

広 告

2008年度の会計報告と2009年度の予算案が了承された。

- 2 2009年度東北支部役員について
- 3 2009年度9月全国大会司会者の推薦について
- 4 2009年度支部活動計画について

支部役員会・総会・大会

7月4日(土) エル・ソーラ仙台

支部役員会・例会

12月5日(土) エル・ソーラ仙台(予定)

- 5 TOHOKU TEFL Vol.3の発行について
投稿規程は支部大会プログラムと共に発送される。締め切りは2009年10月31日(土)の予定。

- 6 東北支部担当の第49回全国大会(2010年9月)について

大会テーマ「明日の学習者、明日の教師——大学英語教育における学習者と教師の自律的成長」、大会会場(宮城大学大和キャンパス本部棟)、大会補助スタッフ、レセプション会場(仙台ロイヤルパークホテル)他について検討した。

- 7 その他 次のJACET賞担当支部について

2. 東北支部総会・大会

日時:7月4日(土) 13:00~ エル・ソーラ仙台 研修室2(仙台駅前 AER 28階)

大会テーマ:英語教育における学習者と教師の成長

研究発表

(1) 草薙優加(秋田県立大)

(2) 倉内早苗(青森公立大)

シンポジウム(自律学習研究会・言語教師認知研究会の共同実施)

司会・話題提供:小嶋英夫(弘前大)

話題提供:笹島 茂(埼玉医科大)、西野孝子(法政大)

3. 今後の予定

7月4日(土)に東北支部7月役員会および東北支部総会・大会が開催される予定である。また、役員会と例会を12月に開催する計画である。JACET東北支部通信 No. 36が3月に、TOHOKU TEFL (JACET東北支部紀要) Vol. 3が3月に発行される予定となっている。

(岡崎久美子・宮城工業高専)

〈北海道支部〉

1. 研究会の開催

- (1) 2009年度第1回研究会

日時:2009年5月9日(土)13:30~14:30

場所:北海学園大学

研究発表1:「データ収集法の分類—学習者要因の場合」(河合靖・北海道大)

研究発表2:「内観法によるデータ収集とリサーチデザイン—発話思考法(think-aloud)と再生刺激法(stimulated recall)を用いてどのように研究するか」(横山吉樹・北海道教育大)

2. 支部役員会の開催

(2) 2009年度第1回役員会

日時:2009年5月9日(土)14:30~16:00

場所:北海学園大学

報告:支部長報告、幹事報告、各種委員会報告

議題:支部総会について、09年度事業計画・予算案について、09年度人事案について、10年度事業計画・予算案について、10年度人事案について、支部長選挙について、その他
なお、同日10:00~12:30に、第1回全国大会実行委員会が開催された。

3. 紀要およびニューズレターの発行

Research Bulletin of English Teaching 第6号 2009年2月27日発行

JACET北海道支部ニューズレター第22号 2009年3月31日発行

(尾田智彦・札幌大学)

社員総会報告

総務担当理事 寺内一(高千穂大学)

社団法人大学英語教育学会

平成20年度第2回社員総会(春季)議事録

1. 日時:平成21年3月22日(日) 13時00分~14時30分
2. 会議場:東京都新宿区西早稲田1丁目6番1号 早稲田大学9号館5階商学部大会議室
3. 出席者:28名(出席者名簿別添)
4. 委任状:委任状出席者82名(委任状出席者名簿別添)
5. 定足数:出席者数合計110、よって『定款』第32条の規定の定足数以上を充足。
6. 陪席者:役員24名(うち委任状出席者5名、

役員名簿別添)、(事務局次長) 荒川明子

7. 議長： 笹島茂

8. 副議長：尾関直子、渡辺敦子

9. 書記： 尾関直子、渡辺敦子

10. 議事録署名：尾関直子、渡辺敦子

11. 議事の概要

(1) 開会

寺内一代表幹事より総会の開催の宣言がなされ、総会成立要件を満たす出席者数(委任状を含む)であることの確認および会議の資料の確認が行われた。

(2) 議長の選出

議長に笹島茂氏、副議長に尾関直子氏、渡辺敦子氏(3名とも社員)が推薦され、満場一致をもって選出された。

(3) 議事録署名人選出

議長が、議案審議に先立ち、議長の他の議事録署名人2名について、尾関直子氏と渡辺敦子氏の両名を指名し、承認された。

(4) 会長挨拶

森住衛会長より社団法人の意義について触れる挨拶があった。

(5) 議事

第1号議案 平成20年度補正予算について承認を求める件

田中慎也財務担当理事より平成20年度補正予算編成に至る経緯について説明があり、「平成20年度補正予算案」が提示され、承認された。

第2号議案 平成21年度活動計画・予算について承認を求める件

1. 平成21年度活動計画

寺内一総務担当理事より「平成21年度活動計画案」について以下の点について説明があり、承認された。

(1) 1号事業 大会、セミナー等の開催

社団法人大学英語教育学会が設立されたときに承認された「平成20年度活動計画」と変更がない旨の説明があり、承認された。

(2) 2号事業 紀要、学会誌等の出版物の刊行
予算の関係で『JACET通信』170号(英語)と『JACET通信』173号(英語)を紙媒体ではなく、Web版で発行することになったと説明があり、承認された。また、『大学英語教育学会50年誌』を刊行する目的で、50周年記念誌作成準備委

員会(総会資料の50周年記念誌作成委員会を訂正し、50周年記念誌作成準備委員会とする)を発足することについて説明があり、承認された。

(3) 3号事業 表彰及び協力

社団法人大学英語教育学会が設立されたときに承認された2009年度活動計画と変更がない旨の説明があり、承認された。

(4) 4号事業 調査・研究

「大学英語教育に関する実態調査」を行う目的で第3次実態調査委員会(「実態調査委員会」より「第3次実態調査委員会」に名称変更)を発足することになったと説明があり、承認された。

(5) 5号事業 その他のこの法人の目的を達成するために必要な事業

6月の理事会などの開催日時、および12月の会長選挙の実施について説明があり、承認された。

2. 平成21年度予算

財務担当理事より、「平成21年度収支予算案」において、「運用財産の取り崩しが120万円ほどあるが、今後、慎重に学会の財務運営を図りたい」との説明があり、承認された。会長から、今後会員の増員を図るなどして、運用財産の取り崩しは回避すべく努力したい旨の補足説明があった。

第3号議案 平成21年度人事について承認を求める件

総務担当理事より「平成21年度人事案」の追加、訂正について説明があり、承認された。また、欠員補充のために新しく選任された社員の任期は1年となることが確認された。

第4号議案 諸規程等の整備について承認を求める件

(1) 内規

総務担当理事より『内規』第23条の文言を訂正すると説明があり、承認された。

(2) 支部運営要領

総務担当理事より支部総会の議決及び社員選出方法に関する『支部運営要領案』が提案され、承認された。

(3) 常勤役員報酬規程(財務関係)

財務担当理事より『常勤役員報酬規程』は理事会で決定する旨の説明があり、承認された。

(4) 慶弔規定

総務担当理事より『慶弔規定』の一部変更の旨について説明があり、承認された。

第5号議案 中・長期的な将来課題について

会長より、学会の今後2～3年から10年後を見据えた中・長期的な計画を考えたいとの説明があり、以下の(1)～(6)の具体的な課題が示され、了承された。

(1) 今後の公益化への考え方

公益社団法人と一般社団法人のどちらを選ぶべきなのかについて慎重に検討する。

(2) 学会間および内外の関連諸機関との連携・協賛及び国際化

内外の学会および関連諸機関との縦軸と横軸の連携・協賛を進め、今後の学会活動の輪を広げていく。

(3) 会員、特に英語母語話者の会員の増強

今後さらに会員増加の努力をする。特に、若い世代の会員、英語母語話者の会員を増やす。

(4) 日本人の英語能力試験の開発

日本人が習得すべき英語能力とは何かについて考え、学会独自の英語能力試験を作成したい。

(5) 大学英語教員の養成と身分保障

大学英語教員の身分保障について学会としても検討していきたい。

(6) 大会、紀要などのあり方

今後、若い世代の会員が積極的に参加できるような大会、紀要にするために、抜本的に見直したい。

(7) その他

中・長期計画について社員に意見を求めたところ、以下のような意見があった。

①大会発表審査員や紀要審査員や学会役員の選出にあたり、博士号の有無を考慮すべきではないかとの発言があり、会長から学術研究・教育実践など広い視野から適任者を選出していきたい旨の回答があった。

②大会発表における英語の発表を増やすべきであるとの発言があり、会長からその方向で一層の国際化を図っているところであるとの返答があった。

第6号議案 その他について

(1) 第50回記念国際大会準備委員会

神保尚武50周年記念国際大会準備委員会委員長より大会テーマ、基調講演者の選考状況、予

算規模、Online登録による大会参加申し込みなどについて説明があり、承認された。また、記念国際大会開催以降のすべての大会を「国際大会」という名称とするという提案もなされ、了承された。会長から基調講演者にぜひ若い方を入れたいとの要望がなされ、了承された。

(2) 50周年記念刊行事業準備委員会

岡田伸夫50周年記念刊行事業準備委員会委員長より、記念刊行事業である『英語教育学大系』(全13巻)刊行の財政的裏付け、各巻の責任編集者による編集体制、各巻の執筆者選出方法、各巻の刊行スケジュール等に関する説明があり、承認された。

(3) その他

- ・会員の動向について、荒川明子事務局次長より報告があった。
- ・椿忠男監事より、大学英語教育学会は社団化され年度内に予算や人事が決定するようになり、組織としてよい通過点になったので、これを機会に大きく飛躍して頂きたいと挨拶があった。

12. 閉会

以上をもって、社団法人大学英語教育学会平成20年度第2回社員総会(春季)の議事を終了したので、議長が閉会を宣言した。

平成21年3月22日

社団法人大学英語教育学会

平成20年度第2回社員総会(春季)

議 長 笹島 茂

議事録署名人 尾関 直子

議事録署名人 渡辺 敦子

平成21年3月22日

社団法人大学英語教育学会

平成21年度事業計画

平成21年度は本学会の社団法人化2年目にあたり、堅実かつ具体的な事業を推進することとなる。また、本年度は、大学英語教育学会50周年に向けての活動の2年目にあたり、より具体的な事業を推進する。

以下は、定款、第5条、第1項、第1号から第

5号に掲げる事業目的に基づいて企画された、平成21年度事業計画の概要である。

1号事業：大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

(1) 全国大会の開催

目的：大会ごとにテーマを決定し、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックする。当該調査・研究発表内容は会員が大学等の授業においてこれを実践し、もってわが国の英語教育の改善に資することを目的とする。

対象：本学会の会員及び英語教育関係者

規模：全国大会約800名。

広報：

- ①会員に対しては学会ホームページと『JACET通信』を通じて広く知らしめる。
- ②その他の英語教育関係者に対しては、学会ホームページと、一般商業雑誌の学会情報（『英語教育』・『英語青年』）を通じて行う。
- ③国内外の関係諸学会に「全国大会案内」を送付する。
- ④マスコミ各社に「全国大会案内」を送付する。

成果：この大会で披露された研究成果や知見を広く普及させることで、会員をはじめ英語教育関係者がより専門性の高い教育研究を行う成果が期待される。

(2) セミナーの開催

目的：セミナーごとにテーマを決定し、国外の提携学会より講師を招聘する等、英語教育及び応用言語学等の最新の研究等についての研鑽の場を提供し、もってわが国の英語教育の発展に資することを目的とする。

対象：当学会の会員・その他の英語教育関係者。

規模：約50名。

広報：

- ①会員に対しては『JACET通信』を通じて告知する。
- ②一般には、案内を学会ホームページに掲載するほか、月刊『英語教育』、『英語青年』誌に掲載する。
- ③英語教育関係団体に案内を送付する。

成果：このセミナーで学んだ事柄を応用させるこ

とで、セミナー参加者はもちろん英語教育関係者の専門性をより高める成果が期待される。

2号事業：紀要、学会誌等の出版物の刊行

(1) 『紀要』の刊行

JACET『紀要』の刊行を行う。

目的：大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究成果を学会公認の論文誌として刊行することにより、わが国の英語教育の改善に資することを目的とする。

対象：会員・その他の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会・海外提携学会等）

規模：毎号3,000冊。刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や、地方公共団体の教育委員会、英語教育関係団体、大学図書館等に無償で献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。非会員に対しては実費相当額程度で有償配布をする。

広報：

- ①投稿規程はJACETホームページと紀要前号巻末に掲載する。ホームページにはテンプレートも掲載して投稿を促進する。
- ②紀要委員会が編集、校正を行う。

成果：

- ①1つの投稿論文は該当分野の専門家3名に査読を依頼し、独創性、構成・論理性、研究の水準等を総合的に評価する。それらを紀要委員会最終判断した後、紀要委員会にて、その論文が英語教育の改善に寄与するものであるかを鑑みて最終的に掲載、非掲載を決定する。採択率は毎回、2分の1から3分の1程度であり、日本における英語教育のトップレベルの論文集であると自負するものである。
- ②JACET紀要への掲載は執筆者にとり大きな業績となるのみならず、研究者同士の情報交換の場として更に活発な研究の促進が期待される。
- ③海外に対し、日本の英語教育に関する最新事情を発信することが可能となる。

(2) 『JACET通信』の刊行

目的：学会の最近の動向や優秀な大学英語教育を会員に紹介する。また、英語版により、英語を母語とする教員にも理解せしめる。また、世界にJACETの活動を知らしめることが可能とな

る。日本語版、英語版のほか、Web版がある。

対象：会員・その他の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会他。

なお、Web版についてはHPに掲載するので一般の人も閲覧が可能である。

規模：会員全員に配布。刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や、地方公共団体の教育委員会、英語教育関係団体、大学図書館等に無償で献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。

成果：学会の最近の動向や優秀な大学英語教育を紹介することにより、会員の大学英語教員としての意識を向上させることが可能となる。

(3)『大学英語教育学大系』全13巻の一部刊行（平成24年度までの短期事業）

本学会は平成24年度に創立50周年を迎えるにあたり、平成19年度の総会において、学会の総力をあげ、大学英語教育学の確立を目指し、創立50周年記念『大学英語教育学大系』を刊行することを決議した。平成19年度に50周年記念刊行事業準備委員会を設立し、本大系の基本理念や全13巻のテーマの企画・立案に鋭意取り組んだ。平成20年度には全13巻の編集者・執筆者、出版社等を確定するとともに、各巻の内容や構成の決定作業を行った。

平成21年度は、平成19年度、20年度の計画に基づき、『大学英語教育学大系』全13巻の刊行を順次行う。本年度は2巻の刊行を目指す。

目的：学会創立50周年を記念し、学会の総力を結集し、大学英語教育学の確立を目指すとともに、その研究成果を日本の大学英語教育の改善に生かすことを目的とする。

刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や、地方公共団体の教育委員会、英語教育関係団体、大学図書館等に無償で献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。会員に対しては無償で配布し、また、非会員に対しては有償配布を行う予定である。

対象：大学英語教育に携わるすべての者、当学会の会員・その他の英語教育関係者

規模：『大学英語教育学大系』全13巻を刊行する。学会は刊行準備費用として総額2,000万円を用意している。

成果：将来の大学英語教育学研究の土台が築かれるとともに、研究に裏打ちされた大学英語教育が日本の大学で広く実践され、英語教育の改善に資することが期待される。

3号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰及び協力

(1) 大学英語教育学会賞の表彰（学術賞・新人賞・実践賞）

大学英語教育学会学術賞・実践賞・新人賞の審査結果に基く表彰を行う。

目的：英語教育における研究または実践上の顕著な業績を通してわが国における大学英語教育の改善に寄与した個人または団体に対して表彰を行うことにより、わが国の大学教員等の英語教育に対する意識を高めることを目的とする。

対象：

①「学術賞」は推薦時までの約1年間に公刊された、英語教育に関連した分野における高度な学術研究が対象となる。

②「新人賞」は、本学会の前年度全国大会における研究発表・実践報告および本学会紀要に発表された優れた研究または実践が対象となる。

③「実践賞」は、大学、短期大学、または高等専門学校における英語教育で顕著な成果を挙げた実践が対象となる。

規模：賞は上記の成果を収めた個人または団体に対して、学会内に設置する大学英語教育学会賞選考委員会の選考を経て理事会が決定し全国大会で授賞する。授賞は原則として各賞について年度ごとに1件とする。

受賞者に対しては賞状とともに記念品を贈呈する。

成果：本大学英語教育学会賞は、受賞者に対しては研究者としての功績を称えることにより、研究活動に一層精進することを奨励することになり、一般会員に対しても本学会賞を目標として各自の研究を発展させることを導く要因となることが期待される。

(2) 関係学術団体への派遣

本学会から海外学術団体へ優れた英語教育関係者の派遣を行う。

目的：海外提携学会の大会へ講演者等として派遣され、本学会代表として参加することにより、

関係諸学会との人的及び学術交流の促進を図る。

対象：学会社員又は理事

規模：海外8団体、RELC (Regional Language Centre)、KATE (The Korea Association of Teachers of English)、IATEFL (International Association of Teachers of English as a Foreign Language)、ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)、ETA-ROC (English Teachers Association of the Republic of China)、MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)、PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)、AILA (Association Internationale de Linguistique Appliquée)が対象。

成果：学会として海外との人的及び学術交流を行い、情報交換をより一層活性化し、研究活動を促進することにより双方の学会の研究の質を高め、また、共同研究を行った実績もあるこれら海外の有力学会に本学会から派遣された代表は、海外における最新の研究動向を収集し、帰国後はこれをセミナー等で発表、または、学会誌等で報告することにより、広くわが国の英語教育関係者に海外の研究動向を周知・普及することが期待される。

4号事業：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

(1) 全国レベルの調査研究

① 大学英語教育に関する実態調査 (2年間の短期事業)

平成14年、15年、19年と大学の英語教育の実態をそれぞれ組織・教員・学生とに分けて報告した。本年度はこれまで踏み込むことができなかった従来の大学の「英語」という科目の範囲を超えた項目を調査することに、その特色がある。つまり、大学院レベルの専門教育と連動した英語教育の現状把握、英語力養成のために行われている従来の「英語」という科目以外の学部授業の実態の把握、国内外の大学との英語による遠隔授業の調査、英語力の指標をどこに置いてカリキュラムを作成し実践しているかといった項目があげられる。

目的：従来の学部教育の「英語」という範疇ばかりでなく、英語を実際に使用して国際社会で通

用する人材育成のために高等教育機関がどのように取り組んでいるかという実態を調査し、その報告を行なうことを目的とする。

対象：大学英語教育学会会員、会員所属の高等教育機関、英語教育関係諸団体、海外提携学会

規模：全国組織の大学英語教育実態調査研究特別委員会

成果：本調査結果を分析することにより、日本の高等教育における英語教育の実態が明らかになる。また、海外の教育機関の実態と比較検討することにより、中長期的な視点に立った日本の英語教育全体の指標作りに資するものとする。本学会の調査研究は、学会での発表及び論文の刊行を通じて一般にも公開されるが、その他にも報告書の配布、HP上における公開を通して研究成果の公開を行う。

(2) 専門分野別の研究会活動 (毎年継続事業)

大学英語教育学会の各支部にはそれぞれの地域の研究や教育の活性化と協力を意図して、専門英語教育 (ESP: English for Specific Purposes) 研究会、英語語彙研究会、東アジア英語教育研究会などの研究会があり (2008年度時点で43研究会)、これらの研究会は、それぞれ独自にテーマを持ち、論文などの出版、学会発表、講演会、調査、学習会などを実施している。なお、各研究会には、毎年3月に研究会名簿、活動報告、活動計画、決算報告の提出が義務づけられている。

目的：各研究会専門分野の調査研究

対象：大学英語教育学会会員及び各専門分野に関心を持つ者

規模：各研究会により各地域から国際的な規模まで多様である。

成果：紀要等での発表、会員相互の専門知識と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元などの成果が期待される。

5号事業：前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業

定例及び必要な場合には臨時の、理事会、総会、運営会議、運営委員会、特別委員会等を開催し、必要な事業について検討を行う。

平成 20 年度収支予算書（補正予算案）
 （平成 20 年 8 月 15 日から平成 21 年 3 月 31 日まで）

（単位：円）

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産運用収入	46,579		46,579	2,000 万円× 1.5%
② 会費収入	4,859,000		4,859,000	社団法人化後の会員数増加を加味
③ 大会収入				
大会参加費収入	4,378,000		4,378,000	会員の増加に伴う収入増を加味
大会展示料収入	1,836,000		1,836,000	1 スペース平均 30,000 円
広告料収入	838,000		838,000	JACET 通信、会員名簿、大会要綱
④ 事業収入				
印税・原稿料収入	720,325		720,325	既出版物に係る印税、新規出版物の原稿料
書籍販売収入	163,000		163,000	ハンドブック等販売収入
⑤ 基本財産収入				
基本財産寄附収入	20,000,000		20,000,000	基本財産 2,000 万円の分を受入
⑥ 運用財産収入				
運用財産寄附収入	10,000,000		10,000,000	運用財産 1,000 万円の分を受入
寄附金収入	38,063,927		38,063,927	任意団体から引継ぎの残余金
⑦ 寄附金収入				
寄附金収入	0		0	
⑧ 雑 収 入				
受取利息収入	26,735		26,735	
その他	606,515		606,515	ニューズレター、支部紀要に掲載する広告料他
事業活動収入計 (A)	81,538,081	0	81,538,081	
2 事業活動支出				
[1] 事業費支出（小計）	18,946,030	0	18,946,030	早稲田大学の会場費
(1) 大会セミナー等事業				
大会運営費	3,988,216		3,988,216	通常予算
セミナー費	1,215,563		1,215,563	2,461,036
通信費	783,369		783,369	50 周年大会費用
印刷費	1,351,352		1,351,352	168,480
出張費	53,660		53,660	
(2) 出版物刊行事業				
50 周年記念刊行事業費	383,602		383,602	
通信費	2,169,407		2,169,407	
印刷費	4,829,431		4,829,431	
(3) 表彰協力事業				
国際交流費	120,275		120,275	
JACET 賞	167,704		167,704	
AILA 加盟料	170,188		170,188	
出張費	0		0	
(4) 調査研究事業				
特別委員会費	2,000,000		2,000,000	ICT 委員会費
研究活動費	0		0	
(5) その他事業				
渉外費	0		0	
会議費	1,360,592		1,360,592	
通信費	352,671		352,671	
[2] 管理費支出（小計）	10,401,310	0	10,401,310	
人件費	4,763,596		4,763,596	諸手当等を追加考慮
社会保険料	327,906		327,906	健保＋労災分
租税公課	244,641		244,641	前年度実績ベースで計上
務所経費	2,780,809		2,780,809	
支払手数料	2,254,750		2,254,750	橋会計事務所、新日本公益認定費用他
雑費	29,608		29,608	支部の実支払額を参考に計上
事業活動支出計 (B)	29,347,340	0	29,347,340	
事業活動収支差額	52,190,741	0	52,190,741	

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
特定預金取崩収入	2,552,082		2,552,082	ICT委員会費と50周年刊行事業費の財源
② 運用財産繰入支出				
運用財産取崩収入	3,500,000		3,500,000	
投資活動収入計 (C)	6,052,082	0	6,052,082	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	200,000		200,000	法人移行期の残高を計上
特定預金取得支出	25,000,000		25,000,000	50周年刊行事業、特別委員会のための特別預金
② 基本財産繰入支出	20,000,000		20,000,000	基本財産2,000万円
③ 運用財産繰入支出	10,000,000		10,000,000	運用財産1,000万円
投資活動収支計 (D)	55,200,000	0	55,200,000	
投資活動収支差額	△49,147,918	0	△49,147,918	
III 予備費支出 (E)	0		0	
当期収支差額 (A)-(B)+(C)-(D)-(E)	3,042,823	0	3,042,823	
前期繰越収支差額	0		0	
次期繰越収支差額	3,042,823	0	3,042,823	

平成21年度収支予算案
(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産運用収入	300,000	46,579	253,421	2,000万円×1.5%
② 会費収入				
会費収入	24,499,000	4,859,000	19,640,000	社団法人化後の会員数増加を加味
③ 大会収入				
大会参加費収入	5,785,000	4,378,000	1,407,000	会員の増加に伴う収入増を加味
大会展示料収入	2,100,000	1,836,000	264,000	1スペース平均30,000円
広告料収入	1,070,000	838,000	232,000	JACET通信、会員名簿、大会要綱
④ 事業収入				
印税・原稿料収入	2,500,000	720,325	1,779,675	既出版物に係る印税、新規出版物の原稿料
書籍販売収入	600,000	163,000	437,000	ハンドブック等販売収入
⑤ 基本財産収入				
基本財産寄附収入	0	20,000,000	△20,000,000	基本財産2,000万円の分を受入
⑥ 運用財産収入				
運用財産寄附収入	0	10,000,000	△10,000,000	運用財産1,000万円の分を受入
寄附金収入	0	38,063,927	△38,063,927	任意団体から引継ぎの残余金
⑦ 寄附金収入				
寄附金収入	150,000	0	150,000	
⑧ 雑収入				
受取利息収入	9,000	26,735	△17,735	
その他	320,000	606,515	△286,515	ニューズレター、支部紀要に掲載する広告料他
事業活動収入計 (A)	37,333,000	81,538,081	△44,205,081	
2 事業活動支出				
[1] 事業費支出 (小計)				
(1) 大会セミナー等事業				
大会運営費	6,007,100	3,988,216	2,018,884	{ 通常予算 5,357,100 50周年大会費用 650,000
セミナー費	1,300,000	1,215,563	84,437	
通信費	519,600	783,369	△263,769	
印刷費	1,742,000	1,351,352	390,648	
出張費	300,000	53,660	246,340	
(2) 出版物刊行事業				
50周年記念刊行事業費	2,720,000	383,602	2,336,398	
通信費	2,224,200	2,169,407	54,793	
印刷費	4,817,800	4,829,431	△11,631	

(3) 表彰協力事業				
国際交流費	750,000	120,275	629,725	
JACET 賞	208,500	167,704	40,796	
AILA 加盟料	153,000	170,188	△ 17,188	
出張費	0	0	0	
(4) 調査研究事業				
特別委員会費	500,000	2,000,000	△ 1,500,000	実態調査研究
研究活動費	860,000	0	860,000	
(5) その他事業				
渉外費	300,000	0	300,000	
会議費	2,789,500	1,360,592	1,428,908	
通信費	926,900	352,671	574,229	
[2] 管理費支出 (小計)	16,033,340	10,401,310	5,632,030	
人件費	8,999,000	4,763,596	4,235,404	諸手当等を追加考慮
社会保険料	570,000	327,906	242,094	健保+労災分
租税公課	350,000	244,641	105,359	前年度実績ベースで計上
事務所経費	4,446,340	2,780,809	1,665,531	
支払手数料	1,600,000	2,254,750	△ 654,750	椿会計事務所, 新日本アーンストアンドヤング税理士法人
雑費	68,000	29,608	38,392	支部の実支払額を参考に計上
事業活動支出計 (B)	36,775,540	25,634,077	11,141,463	
事業活動収支差額	557,460	55,904,004	△ 55,346,544	

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
特定預金取崩収入	3,870,000	2,552,082	1,317,918	50周年刊行事業ほか、特別委員会の財源
② 運用財産繰入支出				
運用財産取崩収入	1,200,000	3,500,000	△ 2,300,000	
投資活動収入計 (C)	5,070,000	6,052,082	△ 982,082	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	200,000	200,000	0	
特定預金取得支出	0	25,000,000	△ 25,000,000	50周年刊行事業、特別委員会のための特別預金
② 基本財産繰入支出	0	20,000,000	△ 20,000,000	基本財産 2,000万円
③ 運用財産繰入支出	0	10,000,000	△ 10,000,000	運用財産 1,000万円
投資活動収支計 (D)	200,000	55,200,000	△ 55,000,000	
投資活動収支差額	4,870,000	△ 49,147,918	54,017,918	
Ⅲ 予備費支出 (E)	30,000	0	30,000	
当期収支差額 (A)-(B)+(C)-(D)-(E)	5,397,460	6,756,086	△ 1,358,626	
前期繰越収支差額	6,756,086	0	6,756,086	
次期繰越収支差額	12,153,546	6,756,086	5,397,460	

各委員会からのお知らせ

JACET賞選考委員会からのお知らせ

『大学英語教育学会創立40周年記念誌』に1992年度から2001年度までの大学英語教育学会賞の受賞者・受賞対象業績を掲載しましたが、今後は『JACET通信』に大学英語教育学会賞の受賞者・受賞対象業績、及びその選考理由を掲載します。本号(ペーパー版及びWEB版)には、2008年度の受賞者・受賞対象業績・選考理由を掲載します。なお、2009年度からは『JACET

通信大会特集号』11月号(日本語)に掲載します。

JACET賞選考委員会

担当理事・西田正

委員長・岩井千秋

2008年度大学英語教育学会賞

学術賞・JACET英語辞書研究会編 *English Lexicography in Japan*. 大修館. 2006.

石川慎一郎(神戸大学)、南出康世(大阪女子大学名

菅教授)、村田年(和洋女子大学)、投野由紀夫(東京外国語大学大学院)

本書はJACET 英語辞書研究会による長年の研究成果が4名の研究者によって編纂されたものである。応用言語学の今日的課題に辞書学の観点からアプローチするという独創的かつ意欲的な試みが選考委員会で高く評価された。

実践賞 JACET 授業学研究委員会編 『高等教育における英語授業の研究』 松柏社. 2007

森住衛(桜美林大学大学院)、山岸信義(東京家政大学)、小栗裕子(滋賀県立大学)、鈴木政浩(西武文理大学)、佐々木智之(北海道工業大学)、小嶋英夫(弘前大学)、小宮富子(岡崎女子短期大学)、池野修(愛媛大学)、鈴木千鶴子(長崎純心大学)

本書は、高等教育における英語授業の体系的分析を試みた好著である。数多くの授業実践例を複眼的に検証することで、わが国における大学等の英語教育のあり方、改善、優れた授業の条件などについて分析、考察が行われている。

大学英語教育学会賞受賞者および受賞対象一覧 (2002年度～2007年度)

2002年度		
学術賞	門田修平(関西学院大学)	著書『英語の書きことばと話しことばはいかに関係しているか—第二言語理解の認知メカニズム』(くろしお出版)
新人賞	塩沢泰子(秀明大学) 佐々木雅子(秋田大学)	2001年度全国大会での「私の授業」における発表: Satellite-Mediated Interactive Joint Class
2003年度		
学術賞学術書部門	投野由起夫(明海大学)	著書『Research on Dictionary Use in the Context of Foreign Language Learning: Focus on Reading Comprehension』(Lexicographica Series Major 106) Niemeyer.
学術賞辞書・事典・データベース部門	小池生夫(明海大学) 河野守夫(神戸海星女子学院大学) 田中春美(名古屋外国語大学) 水谷 修(名古屋外国語大学) 井出祥子(日本女子大学) 鈴木博(中部大学) 田辺洋二(東京国際大学)	事典『応用言語学事典』研究社出版.
実践賞	JACET オーラルコミュニケーション研究会(幸野稔・佐伯林規江・佐々木雅子・塩沢泰子・立山利治・野村和宏・平野道代・ホーランド里里子・三熊祥文)	著書『オーラル・コミュニケーションの理論と実際』三修社.
2004年度		
学術賞学術書部門	竹内理(関西大学)	著書『より良い外国語学習法を求めて—外国語学習者の研究』松柏社.
2005年度		
学術賞学術書部門	河内千栄子(久留米大学)	著書『Pre-Task Planning in L2 Oral Performance—Quantitative and Qualitative Approaches』金星堂.
新人賞	大石晴美(岐阜聖徳学園大学)	2004年度全国大会での発表「課題の難易度の違いによるリスニング時の言語野活性化変化—光トポグラフィによる観測より—」およびその他関連する研究業績
実践賞	西堀ゆり(北海道大学)	2004年度全国大会での「私の授業」における発表「ブロードバンド時代に授業をデザインする—英語ライティング・クラスでの情報化と教育連携—」及びその授業実践の基となる以下の教授法の研究書。編著書:『院内学級を結ぶ情報ネットワーク創生研究—新しい「学び」のかたち』北海道大学言語文化部。『インターネットと国際高速回線で結ぶ遠隔協調学習の教授法研究—「国境のない教室」の歩み—』北海道大学言語文化部
2006年度		
学術賞学術書部門	堀 素子(関西外国語大学) 津田早苗(東海学園大学) 大塚容子(岐阜聖徳学園大学) 村田泰美(名城大学) 重光由加(東京工芸大学) 大谷麻美(奈良大学) 村田和代(龍谷大学)	著書:『ボライトネスと英語教育—言語使用における対人関係の機能』ひつじ書房, 2006.
実践賞	木村友保(名古屋外国語大学)	私の授業(2004年全国大会) その他の資料『現代英語クロニクル3冊CD付き』
2007年度		
新人賞	廣森友人(北海道大学大学院生)	発表:第45回(2006年度)JACET 全国大会 研究発表「英語学習者の動機づけを高める教育介入とその効果」、論文:(2006). The effects of educational intervention on L2 learners' motivational development. JACET Bulletin, 43, 1-14. 他2編、著書:『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』多賀出版 2006.
実践賞	富山真知子・桐村美香・林千代・深尾暁子・藤井彰子・守屋靖代・渡辺敦子(国際基督教大学)	ICUでのELPプログラムの推進と実践、それにもとづいた著書の出版。著書:『ICUの英語教育—リベラル・アーツの理念のもとに』研究社 2006.

国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員会は提携学会に学会員を派遣し、学会間の国際交流を図っています。この春には、まず IATEFL (英国) の年次大会に笹島先生 (埼玉医科大) を、RELC Seminar に村田先生 (名城大) を派遣致しました。協定により、IATEFL では Associate's Day に参加すること、RELC Seminar では発表を行うことになっています。なお、RELC Seminar は JACET の全国大会に相当する大会です。

派遣者の報告書は JACET の web site に載せていますが、ここでは、報告書の一部となる短縮版を掲載することで会員の皆さんに広く見ていただきたいと思えます。

国際交流委員会

担当理事・山内ひさ子 (長崎県立大学)

委員長・相川真佐夫 (京都外国語短期大学)

43rd International Annual IATEFL Conference and Exhibition 参加報告

Wales の Cardiff で 3 月 31 日から 4 月 4 日までの 5 日間行われた。3 月 31 日は Pre-Conference Events (PCE) と Associates' Day があり、前日の 30 日には SVA Dinner が開かれた。大会の公式発表ではないが、参加総数が延べ 2,100 人、発表件数が約 500 と聞いた。例年の通りであるが、様々な国の英語教育の状況の一端が理解できる実践的な内容が多く、各出版社等の展示も盛況であった。これらの内容は British Council の web site で知ることができる。

Associates' Day には約 40 名の Teacher Association (TA) の代表などが参加し、活動報告があった。特に、British Council による Online conference の様子などの紹介、会員の確保、運営費用、TA 相互の連携などが、話題として目立った。日本の印象としては、JACET よりも JALT の活動の認知度が高かった。やはり、英語による活動割合を高くしないと多くの TA との連携はむずかしいのかもしれない。IATEFL の様々な活動を JACET は共有していないのが現状である。IATEFL と提携を結ぶ意味のある程度見直す時期にあるのではないかという印象を持った。

Plenary Sessions の一部を紹介する。Marc Prensky と Elana Shohamy の二人が同時時間帯に行われ、Shohamy の講演に参加した。'Language teachers as active and critical partners in creating and negotiating language policies' である。教師も言語政策にかかわるべきという主旨の話だった。確かに、教師は目の前の授業にだけに関心が向くが、どのような

言語教育の背景にも政策は必ずある。イスラエルという国の状況からすれば説得力のある内容だった。言語政策にはどちらかと言えば疎い日本の英語教師であるが、言語政策などについてももっと考える必要があるのかもしれないと考えた。

IATEFL の大会の魅力は、やはり、その実践的で多面的な英語教育に対する視点であろう。理論的な内容から明日の授業で使える内容まで、また、体系的な研究に基づく発表から素人的な発表まで、多種多様である。さらに、教材展示やオンラインによるネットワーク化など、ただ単に研究ばかりではなく、ビジネスと密接に繋がる方針が実にプラグマティックである。

今回で IATEFL の大会に参加するのは 3 回目であるが、この 3 年間に多くの人と出会えたことが最大の財産である。発表内容もさることながら、IATEFL を推進する人の力が最も魅力的な大会という印象を受けている。英語教育の実践に関心のある方はぜひ次回参加してほしい。次回は Harrogate で 4 月 7 ~ 11 日に行われる。

(笹島茂・埼玉医科大学)

44th RELC International Seminar 参加報告

2009 年 4 月 20 日から 22 日まで第 44 回 RELC International Seminar がシンガポールで開催された。テーマは The Impact of Technology on Language Learning and Teaching: What, How and Why である。RELC の東南アジアにおける語学教育、特に英語教育に対する研究や、教師養成、ならびに教員研修の質の高さや、その中心的役割については認識していたものの、今回初めてセミナーに参加して改めて RELC の存在の大きさを実感した。開会式では大使や大使級の来賓が登場し、会場の雰囲気はかなりフォーマルなものであった。今年のセミナーはタイの全権大使のスピーチで始まった。

初日は 7 時 45 分からレジストレーションが始まり、2 日目と 3 日目は 8 時半開始で、開催期間は短くとも 18 時近くまでプログラムがあり、中身は大変充実していた。セミナーは招待者による講演、パラレル・セッション形式の口頭発表、およびワークショップという 3 部構成になっている。今年のセミナー参加者数は名簿を見ると 470 人余りである。

私は JACET 代表として Teaching English with iPods: Motivating Learners という題で研究発表を行った。約 70 名の聴衆に聞いていただき、批判も含めてさまざまなフィードバックを頂いた。

招待講演は「Technology と英語教育」という分野の第一人者を世界各地から 12 人も揃えただけあって、聞き応えのあるものであった。特にスタンフォード大

学の Philip Hubbard氏による Listening to Learn: New Opportunities in an Online Worldには触発された。語学教育の質的向上のためにはすでにテクノロジーなしではやっていけないところまで世界は進んでいるのだと思われた。一方、インドの参加者の発表では貧しい田舎の子どもたちに英語を教えるため、ラボを使ってどのように奮闘しているかという報告もあり、われわれの住む世界に存在する格差を見せつけられた。

4月という私たちにとっては新学期にあたる時期に開催されるためだと思うが、日本からの参加者はほとんどいなかった。参加する意義の大きい、価値あるセミナーであるので、先生方にぜひお勧めする次第である。

(村田泰美・名城大学)

全国大会運営委員会からのお知らせ

1. 第48回全国大会は9月4日(金)から6日(日)まで北海学園大学にて行われます。今回の大会から大会プログラム冊子が廃止となり、JACETのウェブサイト(<http://www.jacet.org>)上で配信することになりました。7月上旬に掲載される予定です。必要に応じてプログラムをダウンロード、印刷するなどして大会にご持参ください。また、掲載後も随時訂正版がアップロードされる可能性がありますので大会前に最新版をウェブサイトでぜひご確認ください。尚、大会要綱は従来通り大会会場にて配付されます。
2. 第48回全国大会では、9月6日午前中に「市民交流イベント『変わる大学英語』」(北海道支部特別企画)が企画され、全部で4件の事例研究発表、54件のポスターセッションと、多くの大学が一堂に介しての大学英語教育プログラム紹介となりますのでぜひお立ち寄りください。
3. 第48回全国大会は北海道教育委員会と札幌市教育委員会の後援を受けることになりました。
4. 全国大会運営委員会は担当理事、委員長が交代し、4月から新体制になりました。大会運営に関しまして会員の皆様には引き続きご協力・ご支援をいただきますよう、どうぞよろしく御願い申し上げます。

全国大会運営委員会

担当理事・山岸信義(日本教育大学院大学・客)
委員長・浅岡千利世(獨協大学)

紀要委員会からのお知らせ

紀要49号応募報告とお知らせ

今年10月発行予定の紀要49号には全部で22編の応募がありました。それぞれ原則として3人の査読者より評価いただいた後、掲載、非掲載を決定させていただきます。また、応募いただいた論文には、紀要委員会、あるいは査読者の方からいただいたコメントをフィードバックしておりますので、研究の参考にしていただければ幸いです。

なお、査読プロセスを円滑にするため、応募者名と連絡先、タイトル、及びキーワードをホームページよりオンライン入力していただくようになりました。応募の際はJACETのホームページにアクセスし、これらの事項を入力していただくようご協力のほどよろしくお願いいたします。論文(紙ベース)、コピー3部、カバーシート、CD等は、従来通り投稿規程 Submission Guidelines に従って期限までにJACET事務局までご郵送ください。論文の投稿規程の詳細は紀要最新号、及びJACETホームページにてご確認ください。

それでは、会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。

紀要委員会

担当理事・木村松雄(青山学院大学)
委員長・河野 円(星薬科大学)

事務局からのお知らせ

専務理事・事務局長 田中慎也

年度が替わり、社団法人として2年目を迎える事となりました。今後、公益社団法人を選ぶか、一般社団法人を選択するかを決める際に、本年度は、社団法人としての一か年分の報告書を出せる初年度となりますので大変重要な年度となります。本年もよろしくご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

JACET事務局からのお願い

1. 「年会費」の支払い

毎年6月末日までに「年会費」支払いのお願いをしておりますが、今年度も同様に早い時期でのお支払いをお願いいたします。4月に皆様に配信されました「払込取扱票」をご使用下さい。尚、同用紙を紛失なさった方はJACET事務局にご連絡下さい。当該年度の会費未納者の方へは会費が納入されるまで事務局からの

発送物を停止させていただいておりますが、昨年度同様、今年度も9月第3週に「督促状」の発送、その後2週間以内に納入されていない場合は発送の停止を行うこととなります。また、今年度中にお支払いがない場合は会員資格を失いますのでご注意ください。

2. 会員登録情報（連絡先・所属・Eメールアドレスなど）の変更

会員登録情報の変更は、以下の方法でご連絡下さい。

①宛先: JACET事務局会員管理係までEメール (jacet@zb3.so-net.ne.jp)、FAX (03-3268-9695) または郵便。

②件名に「会員登録情報変更」と明記してください。

③氏名（出来れば会員ID）を必ず明記の上、変更する項目名と変更内容をお書き下さい。

3. 『2009年度大学英語教育学会（JACET）名簿』記載情報

2009年度も『2009年度大学英語教育学会（JACET）名簿』を作成いたしますが、個人情報保護法の問題もあり、会員の皆様の掲載情報は原則として昨年度版と同じ、氏名・NAME・〒・連絡先住所・連絡先TEL・連絡先FAX・Eメール・所属・所属TEL・専門分野（①英語教育学、②英語・言語学、③応用言語学、④英米文学、⑤その他）にさせていただきます。昨年度の名簿をご参照の上、今年度の名簿記載項目の変更を希望される場合には、以下の方法で8月15日（土）まで（必着で締め切り厳守）にご連絡下さい。①宛先: JACET事務局会員管理係までEメール (jacet@zb3.so-net.ne.jp)、FAX (03-3268-9695) または郵便。②件名に「名簿記載項目変更」と明記してください。③氏名（出来れば会員ID）を明記の上、名簿に掲載したくない項目名のみを書き「掲載を希望しない」とお書き下さい。今年度から新たに掲載を希望する項目がある場合にはその項目名と「掲載を希望する」とお書き下さい。

4. JACET 刊行物の販売

JACETで刊行された出版物は全て、書籍代前払い、送料（手数料込み）1冊150円にてお分けしております。以下の方法でお求め下さい。①JACET事務局へEメール (jacet@zb3.so-net.ne.jp) またはFAX (03-3268-9695) で申込を行います。（注意: 氏名・Eメールアドレス・JACETからの連絡方法・書籍名・冊数を明記して下さい。）②在庫を確認してJACET事務局からご連絡を差し上げます。③連絡を受けてから郵便振替で振り込んで下さい。（書名・希望冊数を「通信欄」に、送付先住所氏名を「払込人住所氏名欄」に必ずご記入下さい。）口座番号: 00110-7-61932、加入者名: 社団法人大学英語教育学会。

（事務局主任 荒川明子）

訃報

本学会会員（元評議員）楠瀬淳三先生（元上智大学・関東支部）が2009年6月20日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

2009年度1号目のJACET通信は、様々な情報をお届けしました。JACETの社団法人化に伴って、JACET通信の担う役割もますます大きくなりそうです。ご意見・ご希望などございましたら、事務局までお寄せください。

本号では、海外提携学会ETA-ROC(台湾)のDr. Yiu-nam Leung およびDr. Kai-Chong Cheung に多大なご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。また、九州産業大学の柿元悦子先生、広島国際大学の中村朋子先生、大東文化大学の野秀樹先生にも、学年初めのお忙しい中記事をご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

広報通信委員会

編集委員

理事 寺内 一・高千穂大学
委員長 大須賀直子・明治大学
副委員長 田口悦男・大東文化大学
木村みどり・東京女子医科大学
遠藤雪枝・明治大学・非
Robert Hamilton・明治大学
Maggie Lieb・明治大学

2009年7月1日発行

発行者 社団法人大学英語教育学会（JACET）
代表者 森住 衛
発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55
電話 (03) 3268-9686
FAX (03) 3268-9695
http://www.jacet.org/
印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12
有限会社 タナカ企画
電話 (046) 251-5775